

## 只見町民の生活を守る

### 只見町消防団辞令交付式

只見町消防団辞令交付式が4月1日に行われ、目黒邦友団長、三瓶一也副団長、梁取克昌副団長、五十嵐敦彦副団長の4人に辞令が交付されました。

渡部町長は「消防団の取組みに感謝しています。町民の皆さんが健やかな日常を送れるようによろしくお願います」とあいさつをしました。目黒団長は、「周りから見ても優秀と思われる消防団を目指していきます」と意気込みを話しました。



▲目黒団長、梁取副団長、五十嵐副団長は2期目、三瓶副団長は4期目になります

## 鳥獣被害軽減のために

### 鳥獣被害対策実施部隊・有害狩猟鳥獣捕獲隊編成式

只見町鳥獣被害対策実施部隊と只見町有害狩猟鳥獣捕獲隊の編成式が、4月4日に朝日振興センターで行われました。

今年度は、只見地区14人、朝日地区9人、明和地区16人の計39人が実施部隊・捕獲隊として活動します。

渡部町長は「皆さまがいなければ、只見町の生活が危ぶまれます。お仕事をされながら活動している方もいて大変だと思いますが、町民の生活を守るためにお力添えをお願いします」と話しました。



▲隊員を代表して辞令書をうけとる深津隊長

## 森林資源の活用を考える

### 「雪上間伐運搬体験」開催

深沢区の協力のもと、只見町ブナセンターにより「雪上間伐運搬体験」が4月15日から16日に開催されました。

この体験では、かつて薪炭林として利用されていたブナなどの広葉樹林の間伐を実施することで、用材や薪材として活用するための木の成長を促し、地域の振興に寄与することを目的として実施されました。

参加者は間伐材を雪上で滑らせた後、引っ張り運ぶ体験を行いました。今回運び出された間伐材は、用材や薪材として利用される予定です。

渡部町長は「今回の体験をきっかけに放置されてきた町内の森林資源を持続可能な形で活用する中で地域の活性化につなげたい」と期待を込めました。



▲間伐したブナを雪上で運び出す「春木山」を体験した参加者

## 今年度の重点事業を報告

### 「令和4年度町政報告会」開催

町から各区長に当年度の重点事業の説明や事業への協力を依頼する場として開催している「町政報告会」を、4月22日に開きました。

報告会では、「J・R只見線全線再開通事業について」や「有害鳥獣対策について」、「ただみモノとくらしのミュージアム開館・運営について」など18項目について、担当課から報告が行われました。

その後、各区長から事業に対する質問などが挙げられ、活発な意見交換の場となりました。



▲例年、町の事業にご理解、ご協力をいただきありがとうございます

運営事業者(サービス提供者)

株式会社 会津ただみ振興公社

- 総合案内機能
- 物販サービス
- 飲食サービス

味付マトンケバブカフェ  
(有限会社 セイワ電子)

- 飲食サービス

合同会社 ねっか

- どぶろく、甘酒の製造

現在只見駅前では、賑わい創出エリアの利活用のために、融雪撤去などの駐車場整備が進められています。その後はサービスを提供する場としてユニットハウス等の整備が予定されています。

なお、詳細につきましては、観光商工課(☎82-5240)にお問い合わせください。

秋の只見線全線再開通を盛り上げる

「只見駅前賑わい創出事業」  
進捗報告

只見中 中学生記者が書く SDGs コラム

ペット フリー マンデー  
第4回 『PET Free Monday』  
の取組(後編)

文：佐藤 優妃(3年生 前SDGs委員長)



『PET Free Monday (ペットフリーマンデー)』の内容は以下の通りです。

- 毎週月曜日は、ペットボトル飲料を飲みません。合い言葉は「ペット飲料 飲まんデー」
- 月曜日に部活動の大会があってペットボトルを利用した週は、自分でその週の中でペットボトルを休む曜日を設定します。
- この活動を町内の小学校、高校にも広めます。
- 家族等でどうしても賛同いただけない方を、責めてはいけません。
- ペットボトル入りの醤油や、ドレッシング等はこれに含まれません。

**PET Free Monday の取組**

私たち只見中生と先生方そしてその家族は、地球温暖化防止の観点から1週間に1度ペットボトル入りの飲料を飲まない運動を行います。

**実施方法**

- ・ 毎週月曜日は、ペットボトル飲料を飲みません。
- ・ 合い言葉は「ペット飲料 飲まんデー」
- ・ 月曜日に部活動の大会があってペットボトルを利用した週は、自分でその週の中でペットボトルを休む曜日を設定します。
- ・ 来年度には町内の小学校、高校にも広めます。
- ・ 家族等でどうしても賛同いただけない方を、責めてはいけません。
- ・ ペットボトル入りの醤油や、ドレッシング等はこれに含まれません。

完全に禁止にすると私自身も困るし、飲料の販売店にも迷惑がかかってしまうのでそこは考慮しつつ、活動をじわじわ広げようというものです。まずは只見中からですが、いずれ世界中に広げられることができれば素敵だと思います。月曜日の取組みを忘れないためにも「ペット飲料 飲まんデー」という合い言葉も設けました。これは地域の方からヒントを頂きました。クスッと笑いながら取り組めそうですね。

現在は『ペットフリーマンデー』を実行してもらうために、金曜日と月曜日に校内放送を通じて、呼びかけています。学校ではペットボトル飲料をほとんど利用しませんが、問題は家に帰ってからです。私もそうですが、自宅に帰ると忘れてしまったり家族がその取組みを忘れてしまうことがあります。そのため、ペットボトルを冷やしている冷蔵庫に月曜日は『ペットフリーマンデー』の表示ができる方法を考えています。そうすれば、『ペットフリーマンデー』が多くの人に取り組んでもらえるのではないかと考えています。

ぜひ町内の皆さんも、『ペットフリーマンデー』と一緒に取り組んでみませんか? 合い言葉は「ペット飲料 飲まんデー」



# 令和3年度「自然首都・只見」 学術調査研究成果発表会

「自然首都・只見」学術調査研究助成金事業は、ユネスコエコパークに登録された只見町の自然環境・生物多様性や民俗・歴史の調査研究に取り組む研究者等に町が助成を行い、それらの科学的評価を行うとともに、只見町の新たな価値の発見、各研究機関との交流の推進、研究成果の活用を図ることを目的とした事業です。

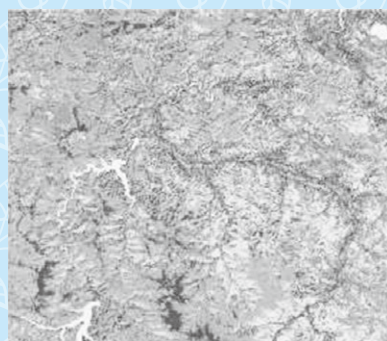
今年度は3件の調査研究が本事業の助成を受け実施され、各研究者からの研究成果報告が2月5日から3月31日の期間にてオンライン形式（成果発表動画のインターネットでの配信および、ただみ・ブナと川のミュージアムでの放映）で行われました。各調査研究の概要を下記にご紹介します。



▲ゼンマイ調査の様子



▲古民家調査の様子



▲調査の結果得られた生態系マップ

ゼンマイは日本海側の豪雪地帯で多く採集されている山菜で、地域の文化や経済における重要な生態系サービスである。しかし、過疎化などで利用が減少しており、生育地の情報等が失われつつある。本研究はゼンマイ生育地の把握や保全・管理のための指標として生態学的な知見を提供し、持続可能な資源利用に貢献することを目的とした。叶津川上流域の木ノ根沢集水域において、ドローンを用いた空撮によって急傾斜地も含めたゼンマイの分布を明らかにした。また、ゼンマイの成長段階ごとの生育環境を調べ、その分布が形成されるメカニズムを調べた。

分布調査の結果から、北東向急斜面の上部の局所的な湿潤地を中心にゼンマイが生育していることが示唆された。成長段階ごとの生育環境調査の結果からは、実生は、

暗く、コケ類が覆い、葉や枝の堆積が少ない場所に集中する傾向があった。実生の定着には乾燥を回避できる環境が重要だと言える。成熟個体の分布は、実生よりも明るく、土壌が厚い場所にシフトしていた。一方で、成熟個体の中でも相対的に暗い場所で大型化する傾向があった。

今回の調査で明らかになったゼンマイの成長史段階による生育環境の違いは成長の過程で生存や成長に及ぼす環境要因が変化することを示唆している。今後はこれらの関係をより詳細に調べるとともに、個体群動態の解析を行い、個体群の維持に必要な情報を明らかにしていきたい。



## 只見町木ノ根沢集水域における ゼンマイ個体群の分布 ～生活史段階に着目して～

武藤美緒（横浜国立大学大学院環境情報学府）  
近藤博史、酒井暁子（横浜国立大学大学院環境情報研究院）



## 只見町の古民家は

### 何の木で作られているのか？

〜2015年から2021年の調査のまとめと今後の展望

阿部伶奈（信州大学大学院理工学研究科）

岡本誠矢（信州大学工学部建築学科）

土本俊和（信州大学工学部）、井田秀行（信州大学教育学部）



古民家およびその生活様式には、地域の自然資源を合理的かつ持続的に利用するための生態学的な知識が豊かに含まれている。そのような地域固有の伝統的な知識体系（伝統知）を理解し、応用することは、今後の持続可能な社会の発展を支える上で不可欠である。本研究では、平成27年から行ってきた只見町での古民家調査の結果と今年度の追加調査の結果を総括する。7年間の調査で実測調査を計12棟の古民家で行い、うち11棟で部材の樹種判定を実施した。また、古民家の解体後の古材利用の現状について把握するため、只見町の古民家の解体に関わった複数の工務店に聞き取り調査を行った。

古民家の樹種構成は概して只見町の現存植生に類似していた。材積量の多いスギ・キタゴヨウ・ブナに関して使用部材別に着目すると、各樹種で特徴的な使用がみられたため、樹種の特徴を捉えた適材適所の樹種選択がなされていたことが推察された。一方、古材の需要の低迷や古材を扱える技術者の不足により、古民家解体後に古材が建材として再利用されているとは言い難い現状があった。

古民家の放棄や解体が進む中、古民家や古材の価値を見直し、その利活用の促進を図るためには、解体にかかる時間や費用を理解した上で保存・再利用しようという所有者の意志が不可欠である。また、解体・古材選別に関わる技術者の育成も重要である。かつての只見町では樹種の特徴を捉えた地域材の有効活用があったことが本研究によって明らかとなった。こうした調査結果を地域住民にも広く伝え、古民家や古材利用の価値向上に役立てることが次の課題である。

## 只見ユネスコエコパーク

### および周辺域における

### 生態系マップ作成

平山英毅、原慶太郎（東京情報大学総合情報学部）



今年度の研究の目的は、只見ユネスコエコパークとその周辺域を対象とした生態系の持続的な維持管理に向けた生態系マップを作成することである。昨年度試行的に作成した現況植生図の改良を進めると共に、優占種（属）レベル（ブナ属、マツ属など）の植生図から分類タイプを統合した相観レベル（落葉広葉樹林、常緑針葉樹林など）の植生図の作成を試みた。只見ユネスコエコパークとその周辺域を対象とし、以下の手順で植生図の作成を進めた。まず、地球観測衛星によって取得された衛星画像を収集・整備した。次に、現地調査および空中写真を用い、どこに何の植生が存在しているかといった必要な情報を整備した。最後に、AIの一つである機械学習技術を用いて植生図を作成した。

今年度の研究の目的は、只見ユネスコエコパークとその周辺域を対象に、衛星リモートセンシングとAIの一つである機械学習技術による現況植生図を作成することができた。今後、現地検証を行い植生図の正確さが担保されることで、自然環境の維持・管理に貢献することができると期待される。